

一人ひとりの暮らし取り戻す

浪江新聞

被災町の奮闘

原発の影響で全町民が避難を強いられている浪江町。被災二本松事業事務所を訪れた。浪江町は町を「復興」する困難さに直面している。（水谷江里）

同役場では、現在160人の職員に加え、他県からの支援で約100人、合計約300人が復興に携わっているという。

浪江町では一人ひとりの暮らしを取り戻すため、浪江以外の市町村でも安心して生活できる環境をつくること。そして、浪



左から浪江町の現状について語る吉田奈津子さんと小林直樹さん



私たちが編集しました

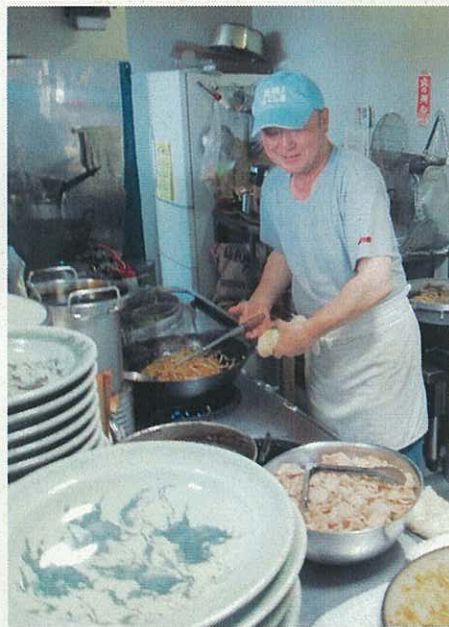
本黒 力輝（岳陽中）
石黒 慶（鏡石中）
千葉 思音（郡山ザペリオ中）
鹿又 康徳（福島大附属中）
濱松 郁美（磐城高）
水谷 江里（相馬高）

「復興」と「対立」 複雑に絡む課題

江を再生させていくこと。こうした取り組みの元にあるのが浪江町の、土地を元に元へ発展させる

浪江町にとって「復興」とは何か。同町復興復興推進課に勤務する小林直樹さん（30）、吉田奈津子さん（28）に聞いた。復興計画の中で優先していることは何か。小林さん「これが一番重要といえるものは決まらねない。今の浪江は様々な問題が絡まり合っている状況。問題を一つずつではなく問題を同時平行で進めることが重要」

震災時苦しかったことや辛かったことは。小林さん「震災時、浪江町は国や県からの連絡がなく、役場を頼ってきた人達に情報を提供することが出来なかった。町民の皆さんの助けになれなかったことが悔しい」吉田さん「浪江の『復興』について議論すると、町民同士が対立してしま



浪江焼きそばを提供する芹川さん



浪江焼きそばを完食したスタッフ、ポリウムにビックリ

二本松で再出発

浪江の味で元氣届ける

まう。町の人達が故郷を想う気持ちは同じなのに、対立してしまうことが辛い」

「復興」とは。小林さん「町民一人一人の暮らしを幸せにする」ことが『復興』なのだと思

B級グルメで有名な浪江焼きそばの店、杉乃家を訪れ、店主の芹川輝男さん（64）に話を聞いた。浪江町に住んでいた芹川さんは、震災後、南相馬市原町区、飯館村、会津若松市など転々と避難。震災から3ヶ月経った頃、二本松市へ避難し、飯館村を開いた。開店の際、沢山の人の応援・支援が力になったという。

後継者問題など、色々な所に震災の影響を受け、苦労は絶えないが、芹川さんは「浪江焼きそばで皆に力をあげたい」と話している。（水谷江里、鹿又康徳）



浪江焼きそば

3つの定義と杉乃家こだわり

浪江焼きそばには、3つの定義がある。①中華麺の太麺を使う②具材は

霞ヶ城

東日本大震災後、私達が多用している「復興」の2文字。辞書には、

盛んな状態に返ること。とある。しかし、本当にそれだけだろうか。建物や道路を元に戻し、元の家、元の町で暮らせるようにすることが。人の「心」はどうだろうか。一人一人が考える「復興」は違う。だからこそ、人の話を聞き、その人が抱えている悩みや、求めていることを汲み取っていくことが大切だ。

震災から2年が過ぎ、生活が落ち着いてきている人も少なくない。だが、そんなときこそ、「心の復興」が必要なのではないか。今、隣にいる人の話を聞くだけでもいい。話を聞こう。人の心を知ろうという姿勢が人の心をつなげ、本当の「復興」への一歩になる。（濱松 郁美）